

梅木 加津子 議員



一括質問方式

- ① 高レベル放射性廃棄物
- ② 廃校施設等管理事業
- ③ 肱川中学校PＦＦ施設整備事業
- ④ 肱川地域の病院確保
- ⑤ 非正規職員に対する退職手当
- ⑥ 子育て支援
- ⑦ 公共施設等の民営化

高レベル放射性廃棄物について

問 経済産業省から核のごみ特性地図が公表され、最終処分ができる可能性のある地域を示した日本地

図が公表され、最終処分ができる可能性のある地域を示した日本地

図の科学的特性マップが公表された。本市もオレンジラインを除く地域が好ましい、また可能性が高い地域になっている。市長として、今回の提示についてどのように認識しているか。

答 今回、経済産業省から公表された科学的特性マップは、高レベル放射性廃棄物を地層処分するに当たり、国民的な議論を深めるために作成されたものであり、各自治体に受け入れの判断を迫るものではないと伺っています。

したがって、このマップの公表を受けて大洲市が何かの行動を起こすということは考えていません。

廃校施設等管理事業について

問 今回の補正予算に閉校施設など管理事業費、旧南久米小プール

など5施設の解体設計委託料が組まれている。学校の統廃合の際、学校をなくすなら地域の活性化のために必要な手だてをよく議論してやるべきと指摘してきたが、実態は、耐用年数を過ぎているや、耐震診断が不

十分など、いろいろな言って何も使えないなどという声が住民の方からあった。廃校後の具体的跡地利用や地域支援を、教育行政と一般行政からどのように行ってきたのか。

答 閉校施設の跡地の利活用については、閉校後、各地区及び市役所内部で活用方策等の検討を行ってきました。

各地区での検討の結果、最終的に利活用の計画がないと回答をいただき、また民間事業者からも特に利活用の提案がなかった施設については、老朽化等により施設の安全確保が困難なこと、経常的に維持管理経費がかかることなどから、除却を行うものです。

なお、除却を行うに当たっては地区に対し説明を行い、必要な要望については可能な限り解体と合わせて実施できるよう設計時に検討することとしています。

肱川地域の病院確保について

問 市長は、3月議会で肱川地域の病院確保をお聞きした際、市が

きちんとした形で保障できるのか、条件を整えて医師募集をしていきたい、最大限の努力をしたいと答弁していますが、どのような保障と条件を整備するつもりなのか、最大限の努力とはいかなるものか、努力をしてきたのか。また、今後どのような努力をするつもりなのか。病院確保についての具体的な段取りをお示しいただきたい。

答 市としては、医院に関する記事を市公式ホームページに掲載し、広く情報発信に努めてきました。その後、間もなく1件の問い合わせがありました。福田医院での勤務医を希望される内容でしたので、残念ながら開業には至っておりません。また、病院の継承や医師の開業を支援するコンサルタント会社から問い合わせがありましたので、福田医院をご紹介したところです。

今後、1年間程度が過ぎても医師の応募がない場合には、引き続き募集を続けながらも、医療機関からの医師の派遣ができないか、また市として診療所を開設するのかなどの検討も考えられます。